

看護を創造し探究する領域

ナラティブ、ケアリング、研究方法の概念を学び、経験を通して看護の意味づけを行うことで、“看護であるものと看護でないものを見分ける眼”を養い、自己の看護観を追究していく力を養う

2年次 前期	ケアリング論	講師名	川野 雅資	必修	1単位 15時間
科目のねらい	看護の本質であるケアリングについて、ケアリングの意義、看護実践の中に存在するケアリングの重要性について学ぶ。ケアリングについて考える時、これまでの日常生活の体験や実習体験を想起し、具体的な現象と抽象的なケアリング理論を結び付けて考える。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ケアリング論－様々な理論家の理論	ケアリングについて紹介している理論家について調べる
2	ジーン・ワトソンのヒューマンケアリング－10の因子	自分自身をケアする方法についてレポートにまとめる
3	ワトソンの10の因子の具体例(1～5番目まで) グループ討議・発表	資料を読み込む
4	ワトソンの10の因子の具体例(6～10番目まで) グループ討議・発表	
5	ケアリング力を高めるエクササイズ 全体的・統合的理解と分析的理解	
6	ケアリングの実践体験（足浴、手浴）	足浴、手浴の準備 体験レポート
7	ケアリングの実践体験（足浴、手浴）	足浴、手浴の準備 体験レポート
8	実践体験からケアリング理論を再考する グループ討議・発表	体験レポート

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	自分の気持ち、感情、感性にふれる。
評価方法	ケアリングの体験レポート
テキスト	なし
参考文献	ワトソン21世紀看護論、日本看護協会出版会
備考	

1年次 全期	ナラティブ I	講師名	益井明子 専任教員	必修	1単位 15時間
科目のねらい	ナラティブとはどのようなものか理解する。そして、自己の経験を他者に語ることをきっかけとして自ら内省し、自己に気づいていく試みが、看護にとっていかなる意味を持つのか理解する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ナラティブとは	
2	「ナラティブ」の実践 ①	
3	「ナラティブ」から活写へ ①	
4	「内省」から「気づき」へ	
5	「ナラティブ」の実践 ②	
6	「ナラティブ」から活写へ ②	
7	自己の「気づき」	
8	ナラティブと看護	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	本科目におけるナラティブは、看護学生らが臨床での自らの経験をストーリーとして語ることを意味しています。これまで経験してきた「忘れられない場面」を語り合うことによって、自分自身の経験の意味を問い直す時間となります。うまく言葉にならないこともたくさんあると思います。心に残っていることをどのような表現でも良いので、語り合っていきましょう。
評価方法	レポート評価
テキスト	
参考文献	随時提示
備考	

2年次 全期	ナラティブⅡ	講師名	専任教員 益井明子	必修	1単位 30時間
科目のねらい	2年次における実習体験について、ナラティブを用いて「語る」、「聴く」を 実践する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ナラティブとは①	ナラティブⅠでの学習を想起して臨む。
2	ナラティブとは②	
3	ナラティブの実践① ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて「語る」、「聴く」を実践する	看護援助論実習での自分の心に残った場面を想起する
4		
5		
6		
7	ナラティブの実践② ・自分の気がかりな場面をナラティブを用いて「語る」、「聴く」を実践する	発達看護論実習Ⅰでの自分の気がかりな場面を想起する
8		
9	ナラティブの実践③ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて「語る」、「聴く」を実践する	発達看護論実習Ⅰでの自分の心に残った場面を想起する
10		
11		
12	ナラティブの実践④ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて「語る」、「聴く」を実践する	こころを理解する実習での自分の心に残った場面を想起する
13		
14		
15	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	臨地実習で経験したことを語り合うことで、自分自身が経験したことの意味を振り返り「語る」「聴く」を実践していく演習になります。 「科目：ナラティブⅠ」を踏まえ、ナラティブを活用し、自分の感情、思考、意図に向き合いながら自分の言葉で語り、メンバーの語りを受け止めながら看護の意味を確かめていきましょう。
評価方法	出席状況で評価
テキスト	随時提示
参考文献	川島みどり：看護を語ることの意味ーナラティブに生きてー.看護の科学社 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として.現代社
備考	

3年次 全期	ナラティブⅢ	講師名	専任教員 益井明子	必修	1 単位 30時間
科目のねらい	3年次における実習体験について、ナラティブを用いて「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ナラティブの実践① ・自分の気がかりな場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論 実習Ⅰでの自分の気がかりな場面を想起する
2		
3	ナラティブの実践② ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論 実習Ⅰでの自分の心に残った場面を想起する
4		
5		
6	ナラティブの実践③ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	地域・在宅看護論 実習Ⅰでの自分の心に残った場面を想起する
7		
8	ナラティブの実践④ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	発達看護論実習Ⅱ での自分の心に残った場面を想起する
9		
10	ナラティブの実践⑤ ・自分の気がかりな場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論 実習Ⅱでの自分の気がかりな場面を想起する
11		
12	ナラティブの実践⑥ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論 実習Ⅱでの自分の心に残った場面を想起する
13		
14		
15	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	グループになり、臨地実習で経験したことを語り合うことで、自分自身が経験したことの意味を振り返り、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践していくことで看護であること看護でないことを考えていく演習になります。 「科目：ナラティブⅠ・Ⅱ」での経験を踏まえ、ナラティブを活用し、自分の感情、思考、意図に向き合いながら自分の言葉で語り、メンバーの語りを受け止めながら看護の意味を確かめていきましょう。
評価方法	出席状況で評価
テキスト	随時提示
参考文献	川島みどり：看護を語ることの意味ーナラティブに生きてー.看護の科学社 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として.現代社
備考	

4年次 全期	ナラティブⅣ	講師名	専任教員 益井明子	必修	1単位 15時間
科目のねらい	4年次における実習体験について、ナラティブを用いて語ることを考え、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し、看護の意味を確かめる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1(1h)	ナラティブの実践① ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、看護の意味を確かめる。	健康段階別看護論実習Ⅲ、地域・在宅看護論実習Ⅱ、発達看護論実習Ⅲでの自分の心に残った場面を想起する
2(2h)		
3(2h)		
4(1h)	ナラティブの実践② ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、看護の意味を確かめる。	テーマ別看護実習での自分の心に残った場面を想起する
5(2h)		
6(2h)		
7(1h)	ナラティブの実践③ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、看護の意味を確かめる。	職場適応統合看護実習での自分の心に残った場面を想起する
8(2h)		
9(2h)		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	臨地実習で経験したことを語り合うことで、自分自身が経験したことの意味を振り返り、看護であること看護でないことを考え「書く（活写）」を行い、自己の体験を「語る」「聴く」を実践していく演習になります。 ナラティブにより、看護であること看護でないことを物語り、臨地実習での経験とこれまで学習してきた内容とを連動させ、看護であることの意味を考えていきましょう。
評価方法	出席状況で評価
テキスト	随時提示
参考文献	川島みどり：看護を語ることの意味ーナラティブに生きてー.看護の科学社 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として.現代社 佐藤紀子：看護師の臨床の知ー看護職生涯発達の視点からー.医学書院 ドナルド・ショーン：省察的実践家とは何かープロフェッショナルの行為と思考. 鳳書房 ドナルド・ショーン：専門家の知恵ー反省的実践家は行為しながら考える
備考	

4年次 後期	ナラティブ応用看護論演習	講師名	専任教員 益井明子	必修	1単位 15時間
科目のねらい	ナラティブで確かめられた看護の意味を「看護実践への提案」として、実践の場への応用を考え提案することで、自分自身の看護観と看護の知（臨床知の継承）を深めるとともに看護実践力を養う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	私たちの知の財産 ・「看護実践への提案」について ・演習への取り組み	これまでの実習で経験してきた自分の心に残った場面を想起する
2	看護実践への提案書 作成①	
3	看護実践への提案書 作成②	
4	看護実践への提案書 作成③	
5	看護実践への提案書に基づく実践演習①②③	
6		
7	看護実践への提案書 評価・修正 まとめ	
8 (1h)		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	ナラティブⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにより確かめられた看護の意味を臨地実習での知の財産として形にして、チームビルディングを行い、「看護実践への提案」として実践の場への応用を考え提案します。 自分が考える看護の本質をどのような形でよいので表現してみましょう。たとえば「気持ちのいい足浴の方法を提案します！！」など、これまで確かめられたことを土台に、方法論にとどまらず看護の本質に迫った「看護実践への提案」を期待します。 「看護実践への提案」は、プレゼンテーション技法を用いて自己の体験を他者に語り、自分自身の看護観を深めていきます。
評価方法	授業時提示
テキスト	随時提示
参考文献	川島みどり：看護を語ることの意味－ナラティブに生きて－.看護の科学社 藤紀子：看護師の臨床の知－看護職生涯発達の視点から－.医学書院 ドナルド・ショーン：省察的実践家とは何か－プロフェッショナルの行為と思考－.鳳書房 ドナルド・ショーン：専門家の知恵－反省的実践家は行為しながら考える
備考	鈴木敏江：看護師の実践力と課題解決力を実現するポートフォリオとプロジェクト学習.医学書院

3年次 全期	研究方法論	講師名	専任教員等	必修	2単位 30時間
科目のねらい	看護における研究の意義について理解し、研究方法、研究計画書立案の基礎的知識を学ぶ。学習を通して幅広い視野で看護を探究する能力を養う。 研究計画書の基本を学び、4年次に実施するテーマ別看護実習に向けて研究テーマのイメージを持つ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護研究の目的と意義	
2	研究方法の基礎知識① ・質的研究（事例研究）	
3	研究方法の基礎知識② ・量的研究	
4	研究方法の実際① ・研究計画（リサーチクエスションの明確化）	
5	文献検索と文献クリティーク① ・文献検索方法	
6	文献検索と文献クリティーク② ・文献クリティーク 批判的吟味	
7	研究方法の実際② ・研究計画（研究目的、研究方法、研究デザイン、データの収集・分析、倫理的配慮）	
8	研究方法の実際③ ・研究の実施～論文作成（研究結果の分析・解釈、論文作成の基礎）	
9	研究計画の検討①	ゼミグループでの意見交換に備え、自分の考えを伝えるための準備をする
10	研究計画の検討②	
11	研究計画の検討③	
12	研究計画の検討④	
13	研究計画の検討⑤	
14	研究計画の検討⑥	
15	研究計画の検討⑦ まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	看護研究に必要な基礎的知識を学習した上で、研究計画書を作成します。 4年次に実施するテーマ別看護実習にむけて自分自身のテーマのイメージを持つ。 研究計画の検討はゼミナール方式で実施します。主体的に準備を行い相談、指導を受けます。ゼミグループの学生間での主体的かつ活発な意見交換を期待します。
評価方法	評価表に基づき評価 100点
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院
参考文献	随時提示 山崎茂明著.看護研究のための文献検索ガイド第4版.医学書院
備考	

4年次 全期	研究の実際	講師名	専任教員	必修	1単位 30時間
科目のねらい	テーマ別看護実習を踏まえ、事例研究論文の作成に取り組むことで、自己の看護実践の振り返りを通して看護を探究する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	オリエンテーション ・当該科目での学び方、取り組み	ゼミナール方式で実施、計画的・主体的に準備を行い相談、指導を受けられる準備をして臨むこと
2	研究指導①	
3	研究指導②	
4	研究指導③	
5	研究指導④	
6	研究指導⑤	
7	研究指導⑥	
8	研究指導⑦	
9	研究指導⑧	
10	研究指導⑨	
11	研究発表準備	
12	研究発表①	
13	研究発表②	
14	研究発表③	
15	研究発表④	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	ゼミナール方式で実施します。主体的に準備を行い相談、指導を受けます。ゼミグループの学生間での主体的かつ活発な意見交換を期待します。
評価方法	評価表に基づき評価 100点
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院
参考文献	随時提示 山崎茂明著.看護研究のための文献検索ガイド第4版.医学書院
備考	